

平成 26 年度 県政世論調査結果

1 調査の概要

(1) 目的

次期香川県環境基本計画策定に関する基礎調査の一環として、県民の環境に対する評価や関心、環境問題に関する考え方及び環境配慮の取組状況などを把握することによって、本県の環境保全における課題や施策の方向を明らかにし、新たに計画に反映させるため、県民を対象としたアンケート調査を実施したものです。

(2) 調査方法

- ① 調査地域 香川県全域
- ② 調査対象 層化二段無作為抽出 3,000人(満20歳以上)
- ③ 調査期間 平成26年6月10日～7月1日

(3) 環境施策についての調査項目

- ① 環境に関する満足度・重要度
- ② 環境に配慮した日常生活の行動
- ③ 行政に期待する取組み
 - ア 地球温暖化防止のための取組み
 - イ 森林整備と都市緑化のための取組み
 - ウ ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組み
 - エ 生物多様性の保全の取組み
 - オ 瀬戸内海の環境の保全に関する取組み
- ④ 自由意見

(4) 回答結果

回答率 50.7% (回答者数: 1,522人)

2 調査の結果

環境に関する重要度・満足度について

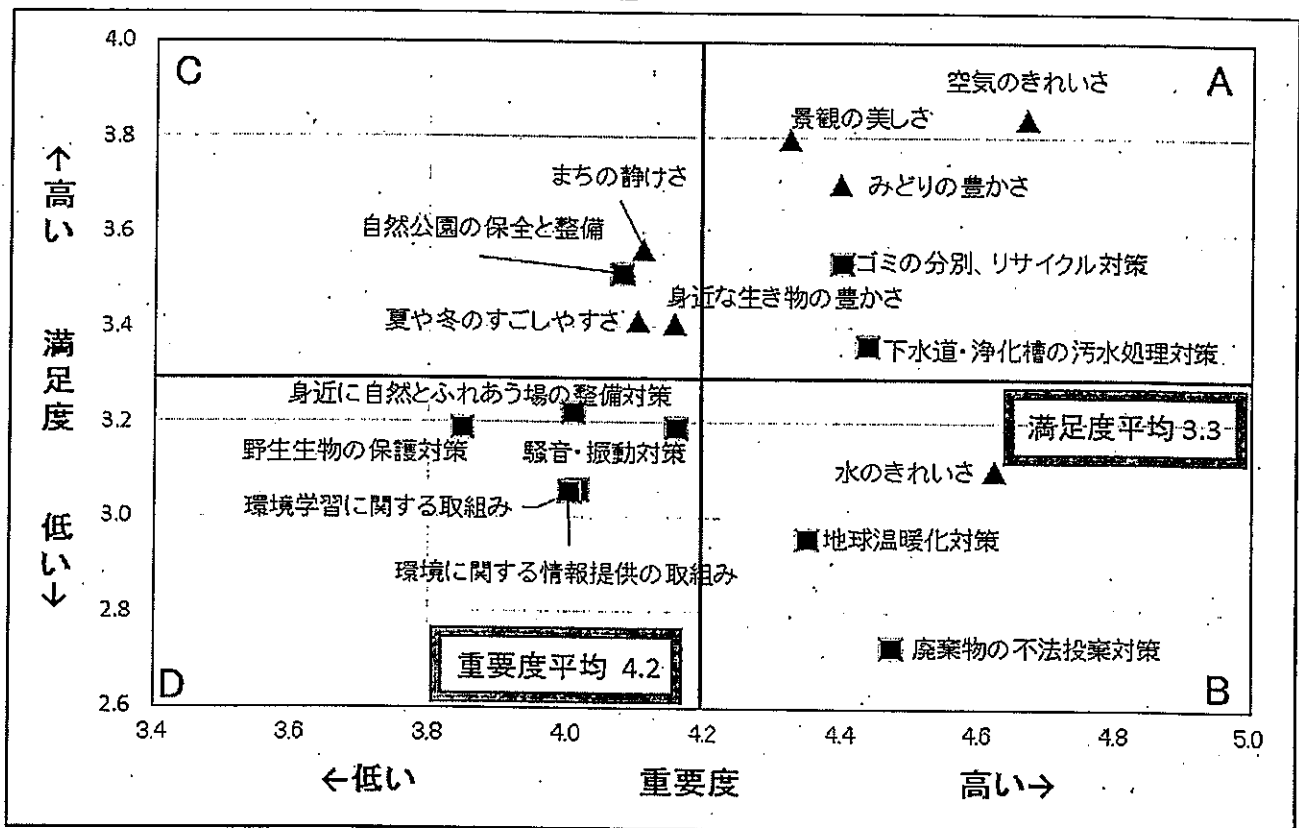
環境に関する重要度・満足度の結果は下の図のとおりです。

環境全般に対する県民の重要度の平均は4.2で、「まあ重要である」評価となっている一方、満足度の平均は3.3で、「どちらともいえない」評価となっています。

個別項目でみていくと、満足度・重要度ともに高いのは、『空気のきれいさ』や『みどりの豊かさ』、『景観の美しさ』等身のまわりの環境の項目が多く、満足度・重要度ともに低いのは、『環境に関する情報提供の取組み』や『環境学習に関する取組み』等行政の環境への取組みの項目が多い結果になっています。

環境に関する重要度・満足度の散布図

(回答者数 1,522人)



▲は『身のまわり環境』の満足度・重要度を、■は『行政の環境への取組み』に対する満足度・重要度をそれぞれ表しています。満足度と重要度の平均ラインを入れています。

【平均値の算出】

満足度・重要度のそれぞれの選択肢に得点を配分し、設問ごとに平均値を算出しています。

満足度	重要度	得点配分
満足している	とても重要である	5
やや満足している	まあ重要である	4
どちらともいえない	どちらともいえない	3
やや不満である	あまり重要でない	2
不満である	全く重要でない	1

満足度
平均値

$$= \frac{\text{「満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「どちらともいえない」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「不満」}}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

ゾーン		評価の趣旨	環境の区分
A	満足度：高い 重要度：高い	県民が現在の環境を維持し、行政の施策の推進・継続を求めているもの	空気のきれいさ みどりの豊かさ 景観の美しさ 下水道・浄化槽の汚水処理対策 ゴミの分別、リサイクル対策
B	満足度：低い 重要度：高い	県民が特に重要と考える環境分野や行政の施策を求めているもの	水のきれいさ 廃棄物の不法投棄対策 地球温暖化対策
C	満足度：高い 重要度：低い	県民が現在の環境や行政の施策が維持されることを求めているが、重要度は低いと考えているもの	身近な生き物の豊かさ 夏冬の過ごしやすさ まちの静けさ 自然公園の保全と整備
D	満足度：低い 重要度：低い	県民が行政の施策に対して満足しておらず、重要度が低いと考えているもの	環境学習に関する取組 環境に関する情報提供の取組 騒音・振動対策 身近に自然とふれあえる場の整備対策 野生生物の保護

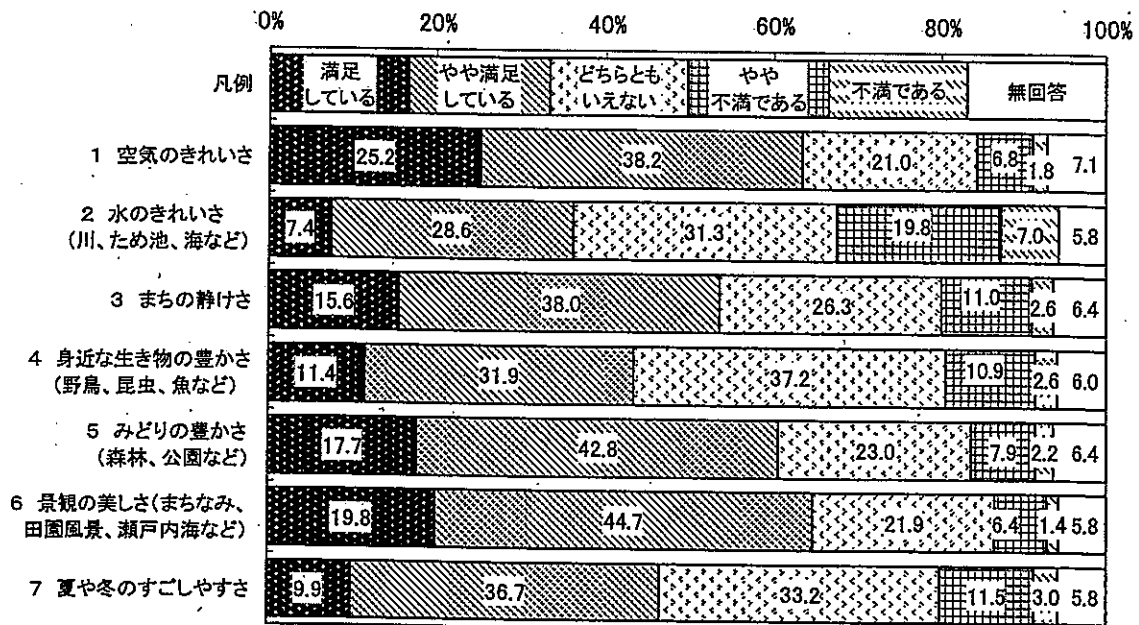
3 環境施策について

(1) 身のまわりの環境について (現在の満足度)

問 16 あなたの身のまわりの環境について、<現在の満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

[回答者数=1,522]	現在の満足度					
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
1 空気のきれいさ	25.2	38.2	21.0	6.8	1.8	7.1
2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	7.4	28.6	31.3	19.8	7.0	5.8
3 まちの静けさ	15.6	38.0	26.3	11.0	2.6	6.4
4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	11.4	31.9	37.2	10.9	2.6	6.0
5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	17.7	42.8	23.0	7.9	2.2	6.4
6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	19.8	44.7	21.9	6.4	1.4	5.8
7 夏や冬の過ごしやすさ	9.9	36.7	33.2	11.5	3.0	5.8

身のまわりの環境について現在の満足度をみると、どの項目でも「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】が「不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。特に『空気のきれいさ』、『みどりの豊かさ (森林、公園など)』、『景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)』では【満足している】が6割を超えている。

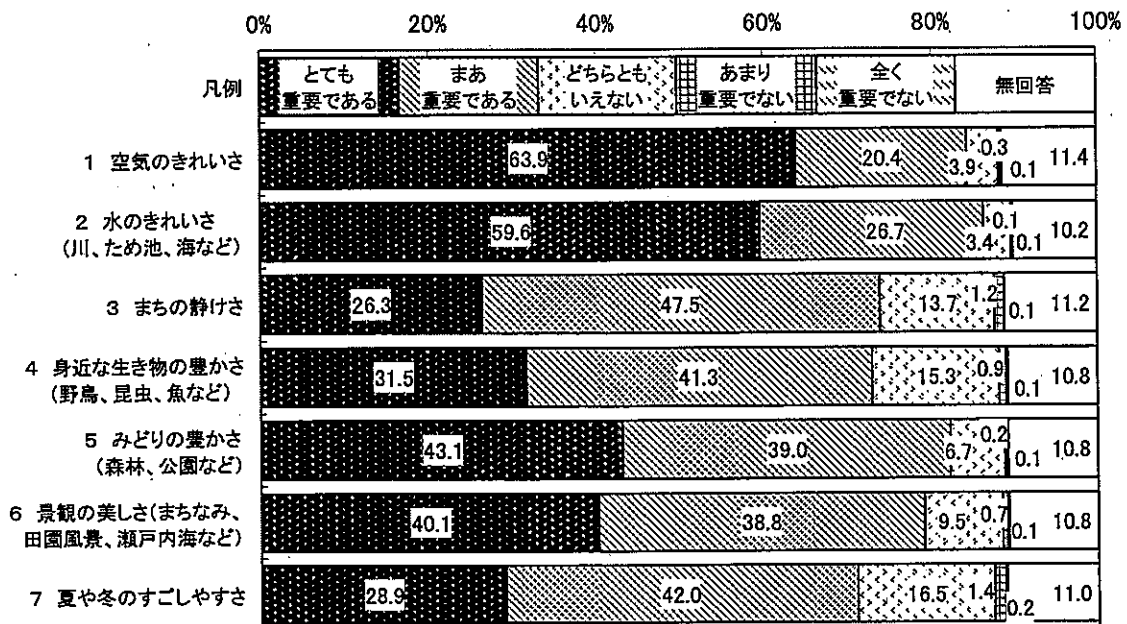


(2) 身のまわりの環境について (将来の重要度)

問 16 あなたの身のまわりの環境について、〈将来の重要度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

[回答者数=1,522]	将来の重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
1 空気のきれいさ	63.9	20.4	3.9	0.3	0.1	11.4
2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	59.6	26.7	3.4	0.1	0.1	10.2
3 まちの静けさ	26.3	47.5	13.7	1.2	0.1	11.2
4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	31.5	41.3	15.3	0.9	0.1	10.8
5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	43.1	39.0	6.7	0.2	0.1	10.8
6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	40.1	38.8	9.5	0.7	0.1	10.8
7 夏や冬の過ごしやすさ	28.9	42.0	16.5	1.4	0.2	11.0

身のまわりの環境について将来の重要度をみると、どの項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が7割を超えている。特に『水のきれいさ (川、ため池、海など)』、『空気のきれいさ』、『みどりの豊かさ (森林、公園など)』では【重要である】が8割を超えている。「全く重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた【重要でない】は、どの項目も2%未満である。



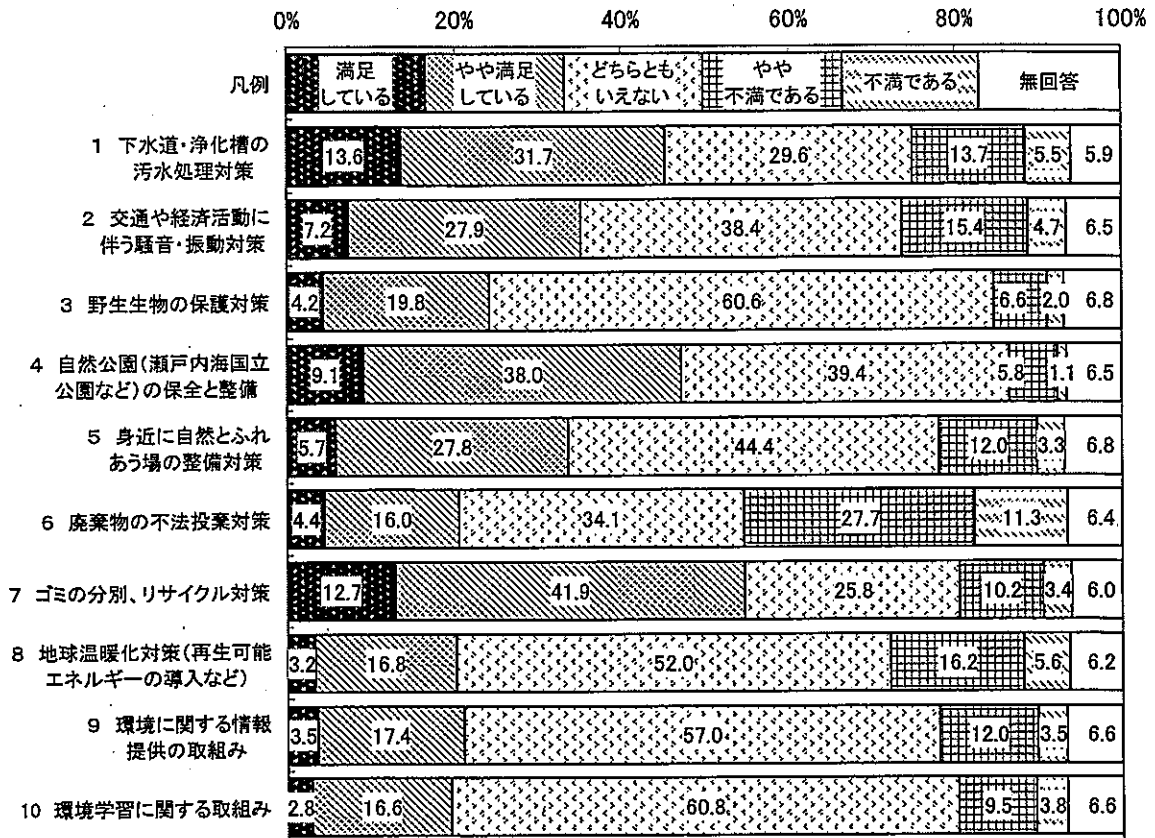
(3) 行政の環境への取組みについて (現在の満足度)

問 16 行政の環境への取組みについて、<現在の満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	現在の満足度					
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
[回答者数=1,522]						
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	13.6	31.7	29.6	13.7	5.5	5.9
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	7.2	27.9	38.4	15.4	4.7	6.5
3 野生生物の保護対策	4.2	19.8	60.6	6.6	2.0	6.8
4 自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	9.1	38.0	39.4	5.8	1.1	6.5
5 身近に自然とふれあう場の整備対策	5.7	27.8	44.4	12.0	3.3	6.8
6 廃棄物の不法投棄対策	4.4	16.0	34.1	27.7	11.3	6.4
7 ゴミの分別、リサイクル対策	12.7	41.9	25.8	10.2	3.4	6.0
8 地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)	3.2	16.8	52.0	16.2	5.6	6.2
9 環境に関する情報提供の取組み	3.5	17.4	57.0	12.0	3.5	6.6
10 環境学習に関する取組み	2.8	16.6	60.8	9.5	3.8	6.6

行政の環境への取組みについて現在の満足度をみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の高いものは、『ゴミの分別、リサイクル対策』が54.6%、次いで『自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備』が47.1%、『下水道・浄化槽の汚水処理対策』が45.3%の順になっている。一方、満足度が低いものは、『環境学習に関する取組み』が19.4%、次いで『地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)』が20.0%、『廃棄物の不法投棄対策』が20.4%の順となっている。

＜ 行政の環境への取組みについて（現在の満足度） ＞



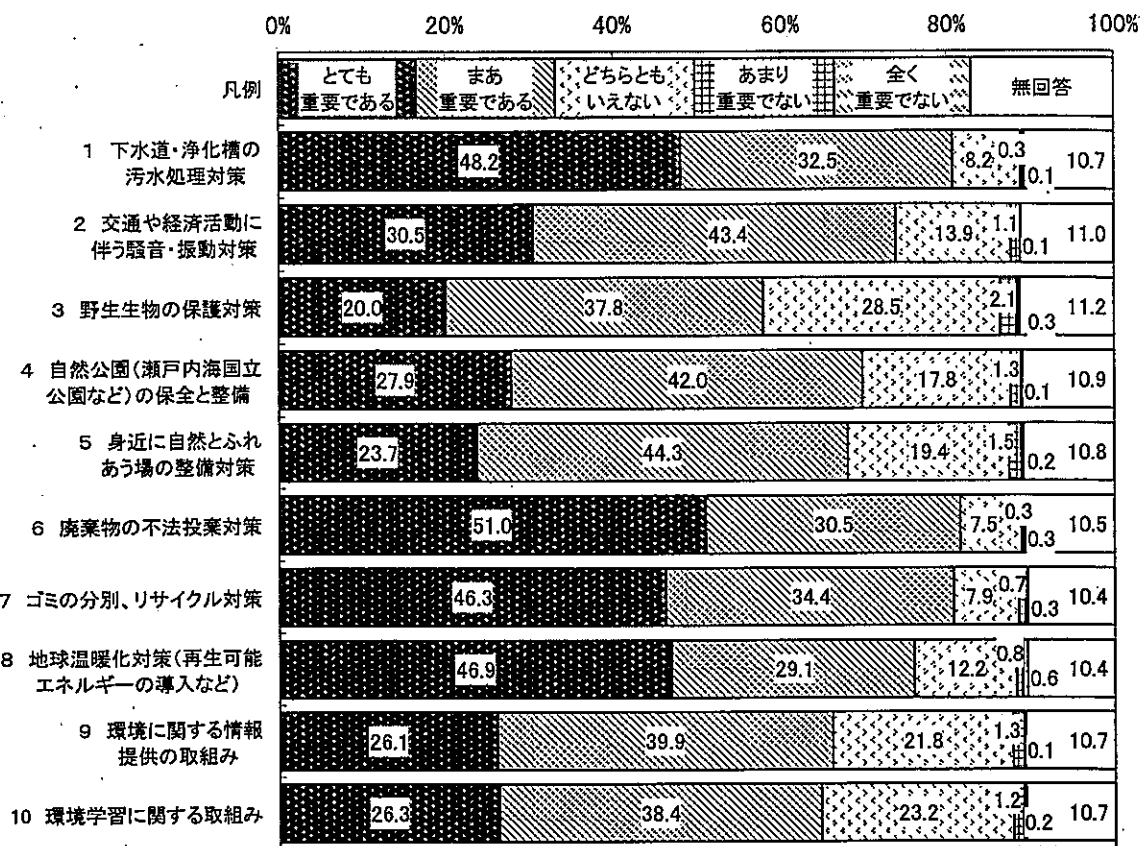
(4) 行政の環境への取組みについて (将来の重要度)

問 16 行政の環境への取組みについて、〈将来の重要度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

	将来の重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
[回答者数=1,522]						
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	48.2	32.5	8.2	0.3	0.1	10.7
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	30.5	43.4	13.9	1.1	0.1	11.0
3 野生生物の保護対策	20.0	37.8	28.5	2.1	0.3	11.2
4 自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	27.9	42.0	17.8	1.3	0.1	10.9
5 身近に自然とふれあう場の整備対策	23.7	44.3	19.4	1.5	0.2	10.8
6 廃棄物の不法投棄対策	51.0	30.5	7.5	0.3	0.3	10.5
7 ゴミの分別、リサイクル対策	46.3	34.4	7.9	0.7	0.3	10.4
8 地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)	46.9	29.1	12.2	0.8	0.6	10.4
9 環境に関する情報提供の取組み	26.1	39.9	21.8	1.3	0.1	10.7
10 環境学習に関する取組み	26.3	38.4	23.2	1.2	0.2	10.7

行政の環境への取組みについて将来の重要度をみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が『野生生物の保護対策』を除く全ての項目で6割を超えている。特に、『廃棄物の不法投棄対策』、『下水道・浄化槽の汚水処理対策』、『ゴミの分別、リサイクル対策』では【重要である】が8割を超えている。「全く重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた【重要でない】は、どの項目も3%未満である。

＜ 行政の環境への取組みについて（将来の重要度） ＞



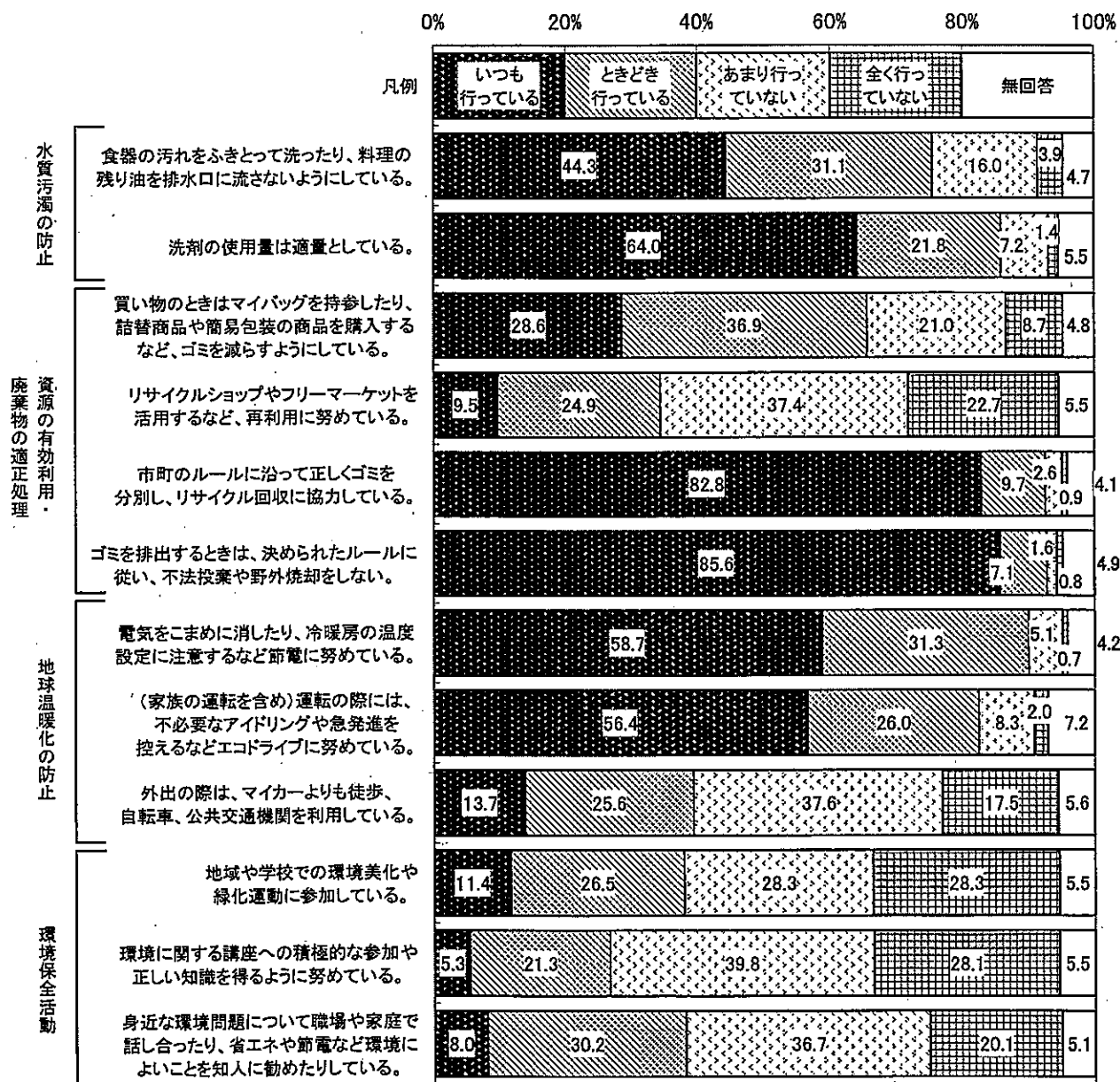
(5) 日常生活の中で環境に関する行動をどの程度行っているか

問 17 あなたは日常生活の中で、次にあげる行動をどの程度行っていますか。それぞれ1～4のうちあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

		取組状況				
		いつも行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	全く行っていない	無回答
[回答者数=1,522]						
水の 質汚濁 の防 止	食器の汚れをふきとって洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている。	44.3	31.1	16.0	3.9	4.7
	洗剤の使用量は適量としている。	64.0	21.8	7.2	1.4	5.5
廃棄物の適正処理 資源の有効利用	買い物のときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らすようにしている。	28.6	36.9	21.0	8.7	4.8
	リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている。	9.5	24.9	37.4	22.7	5.5
	市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している。	82.8	9.7	2.6	0.9	4.1
	ゴミを排出するときは、決められたルールに従い、不法投棄や野外焼却をしない。	85.6	7.1	1.6	0.8	4.9
地球温暖化の防止	電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている。	58.7	31.3	5.1	0.7	4.2
	(家族の運転を含め) 運転の際には、 unnecessary アイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている。	56.4	26.0	8.3	2.0	7.2
	外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している。	13.7	25.6	37.6	17.5	5.6
環境保全活動	地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している。	11.4	26.5	28.3	28.3	5.5
	環境に関する講座への積極的な参加や正しい知識を得るように努めている。	5.3	21.3	39.8	28.1	5.5
	身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている。	8.0	30.2	36.7	20.1	5.1

環境に配慮した県民の行動については、『洗剤の使用量は適量としている。』、『電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意する。』など生活規則として日常に定着し、自己に経済的負担を軽減させるものは、取組率が高くなっているが、『環境に関する講座への積極的な参加や正しい知識を得るように努めている。』『身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている。』など環境対策に有効であるが、時間的な負担が生じたり自己に負荷がかかる行動の取組率が低いことが伺える。

＜ 日常生活の中で環境に関する行動をどの程度行っているか ＞



(6) 地球温暖化防止のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

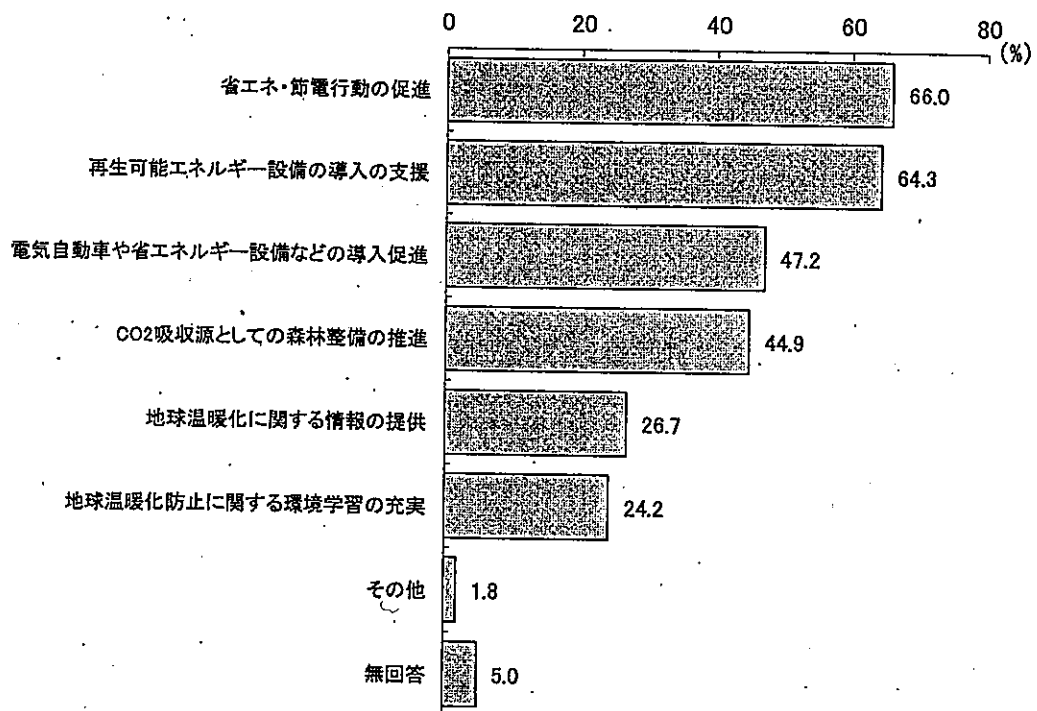
【問 18-1】地球温暖化防止のための取組みについて

[回答者数=1,522]

1 再生可能エネルギー設備の導入の支援	64.3%
2 電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	47.2%
3 省エネ・節電行動の促進	66.0%
4 CO2吸収源としての森林整備の推進	44.9%
5 地球温暖化に関する情報の提供	26.7%
6 地球温暖化防止に関する環境学習の充実	24.2%
7 その他 ()	1.8%
(無回答)	5.0%

地球温暖化防止のための取組みについては、「省エネ・節電行動の促進」が66.0%と6割を超え最も高く、次いで「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が64.3%、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が47.2%などとなっている。

< 地球温暖化防止のための取組みについて >



性別にみると、『男性』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が69.3%で最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『女性』では「省エネ・節電行動の促進」が67.4%で最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに、いずれも「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が最も高く、これに『3年未満』では「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が、『3年以上～10年未満』では「省エネ・節電行動の促進」が続いている。一方、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「省エネ・節電行動の促進」が最も高く、これに「再生可能エネルギー設備の導入の支援」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地球温暖化防止のための取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	再生可能エネルギー設備の導入	電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	省エネ・節電行動の促進	CO2吸収源としての森林整備の推進	地球温暖化に関する情報の提供	地球温暖化防止に関する環境学習の充実	その他	無回答
全体		1,522	64.3	47.2	66.0	44.9	26.7	24.2	1.8	5.0
性別	男性	616	69.3	51.3	65.4	46.4	21.4	22.1	2.8	4.2
	女性	858	61.5	44.4	67.4	44.6	30.9	25.8	1.3	4.4
年齢別	20~29歳	104	64.4	55.8	61.5	60.6	25.0	16.3	1.9	1.9
	30~39歳	184	67.4	55.4	60.3	47.8	25.5	23.4	2.7	2.2
	40~49歳	201	70.1	56.7	62.7	53.2	19.9	21.9	3.5	1.5
	50~59歳	254	66.5	51.6	67.7	45.3	29.9	25.6	1.6	2.0
	60~69歳	373	64.3	45.3	70.2	44.5	26.5	25.2	1.1	4.6
	70歳以上	360	59.4	35.3	68.6	36.4	30.3	26.9	1.7	8.9
職業別	農林漁業	77	67.5	35.1	67.5	40.3	23.4	22.1	3.9	7.8
	商工業、サービス業、自由業など	198	62.6	49.5	66.7	46.5	24.2	23.7	1.0	5.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	66.4	56.4	64.1	50.0	25.7	22.9	2.3	2.3
	主婦・主夫	356	65.7	39.6	70.2	43.8	30.6	26.4	0.8	3.9
	無職	271	61.6	41.7	66.4	39.5	27.7	26.6	2.6	6.3
圏域別	高松圏域	710	65.1	48.5	64.5	43.2	26.3	24.6	2.1	5.1
	東讃圏域	150	64.7	40.0	70.0	52.0	26.0	24.7	0.0	4.7
	小豆圏域	41	58.5	31.7	68.3	39.0	31.7	22.0	0.0	9.8
	中讃圏域	407	63.1	47.7	65.1	47.9	26.5	22.6	2.5	4.7
	西讃圏域	214	65.0	50.0	69.2	41.1	27.6	25.7	1.4	4.7
居住年数別	3年未満	98	66.3	65.3	58.2	55.1	19.4	18.4	2.0	3.1
	3年以上~10年未満	220	72.7	50.0	66.8	48.6	24.5	20.0	1.8	2.7
	10年以上~20年未満	225	64.4	48.0	65.8	51.1	26.2	24.0	4.0	1.8
	20年以上	935	62.8	44.9	67.4	42.4	28.4	26.1	1.4	5.3

(7) 森林整備と都市緑化のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

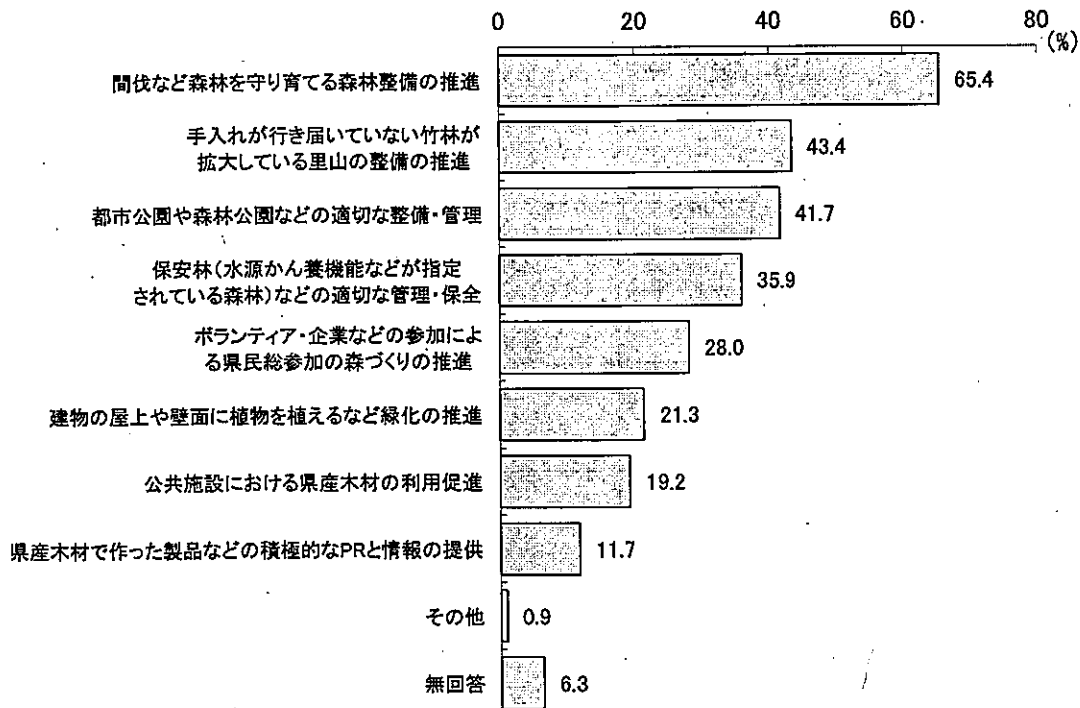
【問 18-2】森林整備と都市緑化のための取組みについて

〔回答者数=1,522〕

1 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	65.4%
2 保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	35.9%
3 ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	28.0%
4 公共施設における県産木材の利用促進	19.2%
5 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.7%
6 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	41.7%
7 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	21.3%
8 手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進	43.4%
9 その他（ ）	0.9%
（無回答）	6.3%

森林整備と都市緑化のための取組みについては、「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が65.4%と6割を超え最も高く、次いで「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が43.4%、「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が41.7%などとなっている。

< 森林整備と都市緑化のための取組みについて >



性別にみると、男女とも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が67.4%、『女性』が64.7%となっている。これに、『男性』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、『女性』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、特に『50～59歳』では7割を超えている。これに、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が続いている。

職業別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、これに『農林漁業』、『無職』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、その他の職業では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、『小豆圏域』を除く全ての圏域で6割を超えている。これに、『高松圏域』、『西讃圏域』では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が、その他の圏域では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割を超え最も高く、これに『20年以上』では「手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進」が、その他の居住年数では「都市公園や森林公園などの適切な整備・管理」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
森林整備と都市緑化のための取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	保全されている森林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	公共施設における県産木材の利便促進	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	手入れが行き届いていない竹林が拡大している里山の整備の推進	その他	無回答
全体		1,522	65.4	35.9	28.0	19.2	11.7	41.7	21.3	43.4	0.9	6.3
性別	男性	616	67.4	39.3	28.2	20.6	11.5	39.1	19.5	45.9	1.0	4.7
	女性	858	64.7	34.1	28.3	18.3	11.8	43.6	23.2	42.5	0.9	6.3
年齢別	20~29歳	104	64.4	29.8	30.8	20.2	7.7	61.5	31.7	38.5	1.0	1.9
	30~39歳	184	65.2	37.5	28.8	13.6	13.0	50.5	31.5	38.6	1.1	2.2
	40~49歳	201	68.2	38.3	27.9	16.9	11.4	46.8	26.9	42.8	1.0	2.5
	50~59歳	254	71.7	41.7	24.8	20.5	9.4	42.1	21.7	49.6	1.6	2.4
	60~69歳	373	67.3	39.1	31.9	18.2	12.1	35.9	15.8	46.6	0.0	6.7
	70歳以上	360	59.7	30.0	25.8	23.3	13.1	34.4	17.2	42.8	1.4	11.1
職業別	農林漁業	77	59.7	32.5	22.1	28.6	18.2	29.9	13.0	50.6	2.6	9.1
	商工業、サービス業、自由業など	198	69.7	39.4	25.8	21.2	11.1	39.9	19.7	39.4	0.5	6.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	69.5	39.1	28.8	17.0	12.0	46.3	25.4	45.0	0.7	2.5
	主婦・主夫	356	61.5	34.6	30.9	19.1	11.0	45.5	19.4	43.3	0.8	5.9
	無職	271	64.2	32.5	27.3	20.7	10.7	33.2	20.7	44.6	1.5	9.2
圏域別	高松圏域	710	66.2	33.1	28.6	19.0	10.4	43.1	24.9	41.5	1.0	6.2
	東讃圏域	150	66.0	40.7	33.3	13.3	8.7	41.3	16.0	50.0	0.0	6.7
	小豆圏域	41	58.5	43.9	19.5	24.4	9.8	24.4	9.8	46.3	0.0	14.6
	中讃圏域	407	64.9	35.9	27.5	18.7	15.5	39.1	21.9	43.5	1.5	5.9
	西讃圏域	214	64.5	40.2	24.8	23.8	11.2	45.3	14.0	44.4	0.5	5.6
居住年数別	3年未満	98	63.3	43.9	25.5	12.2	11.2	50.0	37.8	36.7	1.0	2.0
	3年以上~10年未満	220	66.4	31.4	30.9	16.4	12.7	50.9	30.0	39.5	0.9	2.7
	10年以上~20年未満	225	68.9	36.0	21.8	21.8	12.9	45.8	23.6	42.7	1.3	4.0
	20年以上	935	65.2	36.8	29.5	20.1	11.1	37.8	17.6	46.2	0.9	7.0

(8) ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

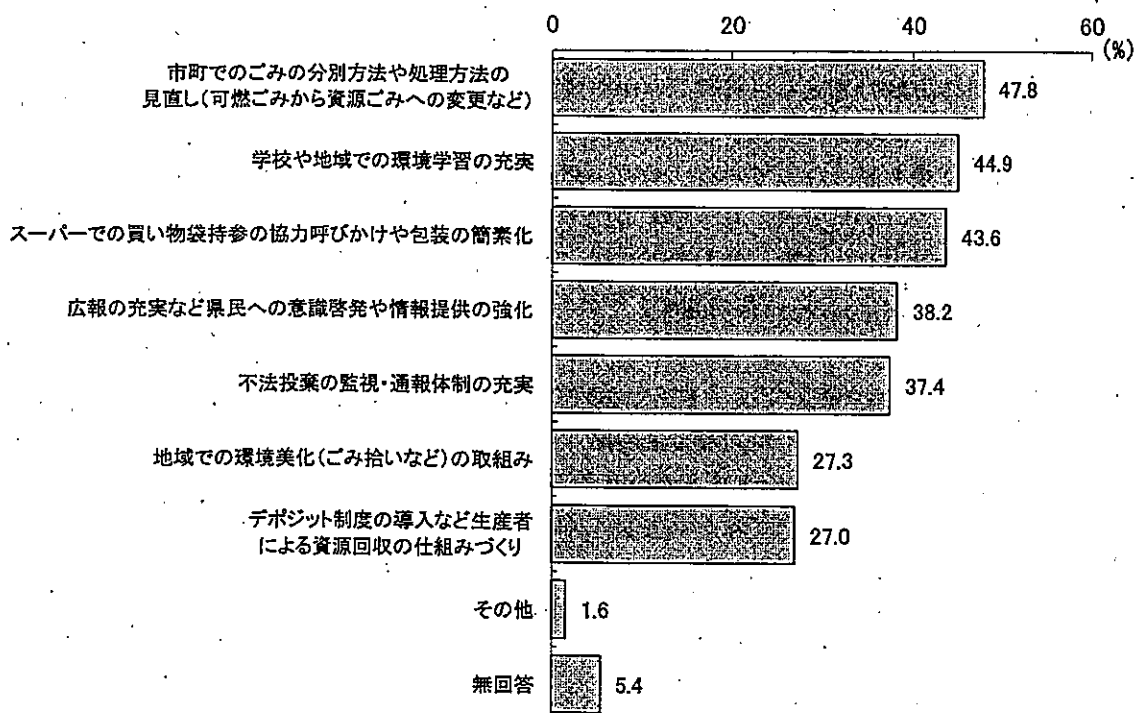
【問 18-3】 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

〔回答者数=1,522〕

1 広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化	38.2%
2 学校や地域での環境学習の充実	44.9%
3 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	47.8%
4 デポジット制度の導入など生産者による資源回収の仕組みづくり	27.0%
5 スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	43.6%
6 地域での環境美化(ごみ拾いなど)の取組み	27.3%
7 不法投棄の監視・通報体制の充実	37.4%
8 その他()	1.6%
(無回答)	5.4%

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについては、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)」が47.8%と半数近くを占め最も高く、次いで「学校や地域での環境学習の充実」が44.9%、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が43.6%などとなっている。

< ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて >



性別にみると、『男性』では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」、「学校や地域での環境学習の充実」が同率で最も高く、これに、「不法投棄の監視・通報体制の充実」が続いている。また、『女性』では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『70歳以上』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が最も高く、これに、『20～29歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が、『70歳以上』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が半数を超え最も高く、これに、『30～39歳』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で、『40～49歳』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。一方、『50～59歳』、『60～69歳』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が半数を超え最も高く、これに、『50～59歳』では「学校や地域での環境学習の充実」が、『60～69歳』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が半数を超え最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校や地域での環境学習の充実」が半数を超え最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。一方、その他の職業では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに『農林漁業』、『主婦・主夫』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、『無職』では「広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」が最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。また、『東讃圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で最も高くなっている。一方、その他の圏域では、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに『小豆圏域』では「広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化」が、『中讃圏域』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、『西讃圏域』では「学校や地域での環境学習の充実」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「学校や地域での環境学習の充実」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率で最も高くなっている。また、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「学校や地域での環境学習の充実」が最も高く、これに「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が続いている。一方、『20年以上』では「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）」が最も高く、これに「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	広報の充実など県民への意識啓発や情報提供の強化	学校や地域での環境学習の充実	市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	デポジット制度の導入など生産者による資源回収の仕組みづくり	力呼びかけや包装の簡素化	スーパードでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	地域での環境美化(ごみ拾いなど)の取組み	不法投棄の監視・通報体制の充実	その他	無回答
全体		1,522	38.2	44.9	47.8	27.0	43.6	27.3	37.4	1.6	5.4	
性別	男性	616	39.3	47.2	47.2	27.1	39.1	30.7	40.4	1.6	4.1	
	女性	858	38.0	43.5	48.8	26.9	48.5	25.8	35.5	1.5	5.1	
年齢別	20~29歳	104	29.8	51.0	47.1	29.8	55.8	28.8	38.5	1.9	1.9	
	30~39歳	184	32.1	51.1	50.0	24.5	50.0	26.1	39.1	3.3	2.2	
	40~49歳	201	36.3	61.2	44.3	32.8	47.3	21.9	37.8	0.5	2.0	
	50~59歳	254	44.9	50.4	51.2	27.6	39.8	22.4	42.5	2.4	2.0	
	60~69歳	373	37.0	38.1	51.2	31.6	38.9	35.1	38.1	0.8	4.3	
	70歳以上	360	42.8	35.6	44.4	19.2	46.1	27.8	32.8	1.4	10.3	
職業別	農林漁業	77	32.5	39.0	49.4	22.1	46.8	32.5	33.8	3.9	7.8	
	商工業、サービス業、自由業など	198	31.3	45.5	49.0	25.8	50.5	24.7	37.9	1.0	5.1	
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	38.9	52.3	49.6	30.2	41.8	29.1	42.0	1.1	2.3	
	主婦・主夫	356	40.4	41.9	49.2	23.6	47.5	28.4	34.0	1.7	4.5	
	無職	271	43.2	37.3	44.3	27.7	41.7	25.5	35.1	1.8	7.0	
圏域別	高松圏域	710	37.9	45.9	45.1	27.3	42.3	28.3	39.0	1.7	5.8	
	東讃圏域	150	36.7	46.7	44.0	28.0	46.7	32.7	30.7	1.3	5.3	
	小豆圏域	41	39.0	36.6	58.5	29.3	31.7	26.8	24.4	0.0	9.8	
	中讃圏域	407	37.3	42.8	51.4	27.3	45.0	24.8	38.1	2.2	4.9	
	西讃圏域	214	42.1	46.3	50.5	24.3	45.8	25.2	37.9	0.5	4.2	
居住年数別	3年未満	98	30.6	52.0	45.9	24.5	52.0	30.6	39.8	2.0	2.0	
	3年以上~10年未満	220	42.3	54.1	46.4	29.5	40.9	25.9	38.6	2.7	2.3	
	10年以上~20年未満	225	38.2	46.4	44.9	28.4	43.1	24.4	43.1	0.9	3.6	
	20年以上	935	38.5	41.6	49.7	26.4	44.9	28.8	35.9	1.4	5.7	

(9) 生物多様性の保全の取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

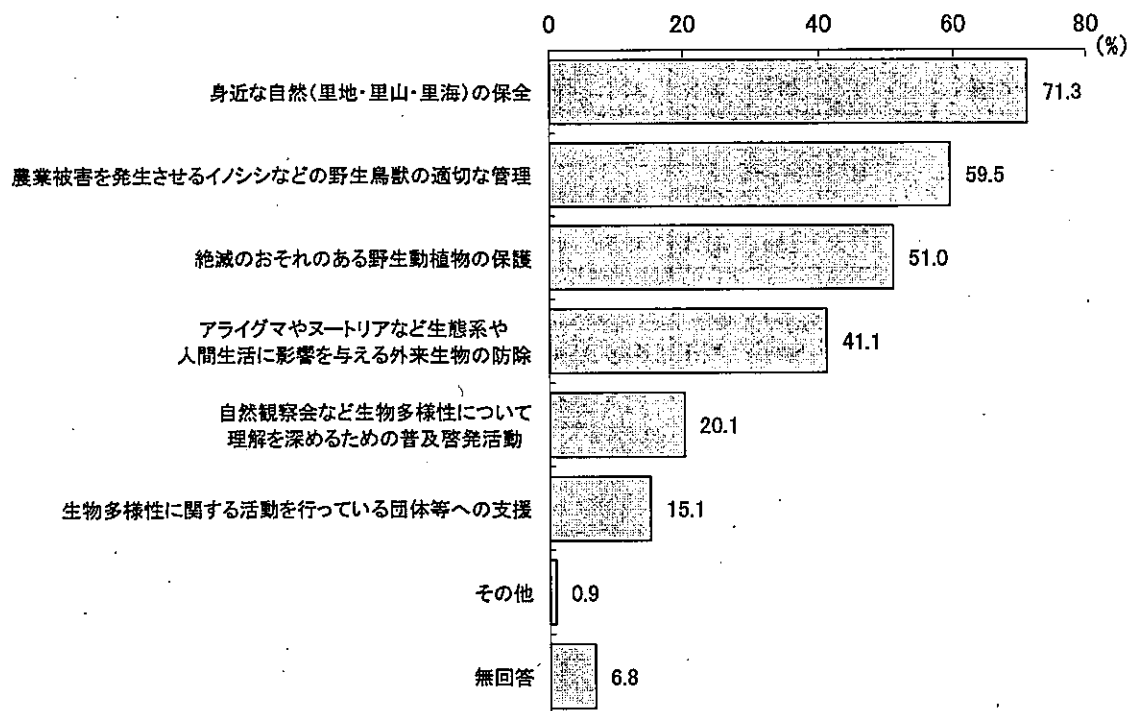
【問 18-4】生物多様性の保全の取組みについて

〔回答者数=1,522〕

1 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	51.0%
2 身近な自然(里地・里山・里海)の保全	71.3%
3 アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	41.1%
4 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	59.5%
5 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	20.1%
6 生物多様性に関する活動を行っている団体等への支援	15.1%
7 その他()	0.9%
(無回答)	6.8%

生物多様性の保全の取組みについては、「身近な自然(里地・里山・里海)の保全」が71.3%と7割を超え最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が59.5%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が51.0%などとなっている。

< 生物多様性の保全の取組みについて >



性別にみると、男女とも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が7割を超え最も高く、その比率は『男性』が73.7%、『女性』が70.6%となっている。これに、男女とも「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『30～39歳』では8割を超えている。これに、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が7割を超え最も高く、これに「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が続いている。その他の職業では、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では7割を超えている。これに、いずれも「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が7割を超え最も高く、これに「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が続いている。また、『西讃圏域』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」、「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が同率で最も高く、これに「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が続いている。一方、その他の圏域では、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が最も高く、これに「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6割を超え最も高く、特に『3年未満』では8割を超えている。これに、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
生物多様性の保全の取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	絶滅のおそれのある野生動植物の保護	身近な自然(里地・里山・里海)の保全	除人間生活に影響を与える外来生物の防	アライグマやヌートリアなど生態系や	農業者を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	農業被害を発生させるイノシシ	自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	生物多様性に関する活動を行っている団体等への支援	その他	無回答
全体		1,522	51.0	71.3	41.1	59.5	20.1	15.1	0.9	6.8		
性別	男性	616	49.4	73.7	48.5	61.5	17.9	12.3	1.0	5.2		
	女性	858	52.8	70.6	36.0	58.9	22.5	17.6	0.8	6.6		
年齢別	20～29歳	104	70.2	73.1	37.5	54.8	22.1	24.0	0.0	1.9		
	30～39歳	184	62.0	82.1	38.0	53.8	19.6	15.2	0.5	1.6		
	40～49歳	201	60.2	78.6	44.8	58.7	26.9	12.4	0.5	1.5		
	50～59歳	254	55.1	77.2	46.5	59.1	18.9	15.7	1.2	3.1		
	60～69歳	373	44.5	69.4	41.3	65.7	23.9	15.0	1.3	6.2		
	70歳以上	360	39.4	62.2	38.9	60.6	14.4	14.7	0.8	13.6		
職業別	農林漁業	77	26.0	62.3	45.5	71.4	18.2	10.4	2.6	7.8		
	商工業、サービス業、自由業など	198	53.5	68.2	38.4	63.6	17.2	13.6	0.5	7.1		
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	58.2	79.3	45.0	58.4	23.8	15.0	0.4	2.0		
	主婦・主夫	356	50.3	70.8	35.7	56.7	22.5	18.8	0.8	7.6		
	無職	271	43.5	64.6	42.8	62.7	15.5	14.4	1.8	10.0		
圏域別	高松圏域	710	51.4	73.8	40.3	56.9	19.7	16.5	0.8	6.6		
	東讃圏域	150	49.3	66.0	48.7	62.0	19.3	13.3	0.7	7.3		
	小豆圏域	41	36.6	68.3	53.7	70.7	12.2	4.9	0.0	9.8		
	中讃圏域	407	53.3	71.3	36.1	58.0	23.6	16.0	1.5	7.1		
	西讃圏域	214	49.1	67.3	45.3	67.3	16.8	12.1	0.5	5.6		
居住年数別	3年未満	98	66.3	80.6	43.9	50.0	15.3	16.3	1.0	4.1		
	3年以上～10年未満	220	62.3	75.9	40.9	55.9	22.3	14.5	0.0	2.7		
	10年以上～20年未満	225	53.3	77.3	43.6	60.0	20.9	17.8	0.4	3.1		
	20年以上	935	46.6	69.0	40.7	62.1	20.5	14.9	1.2	7.6		

(10) 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

問 18 次のテーマについて、実施に賛成し、効果の高いと思われる取組みを3つずつ選んでください。

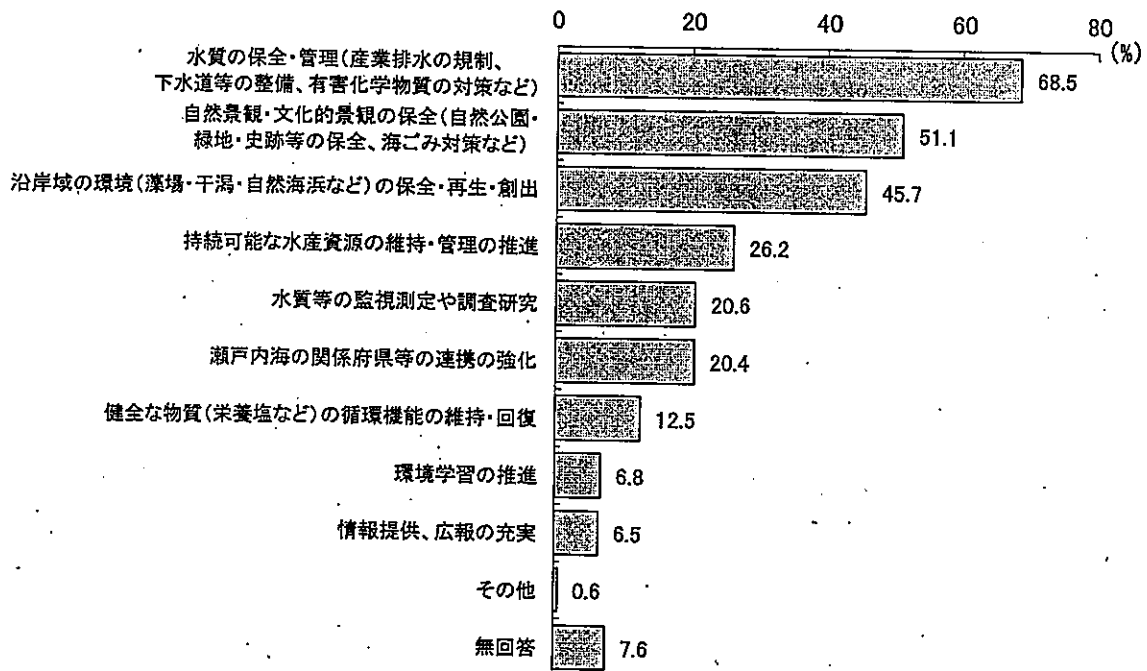
【問 18-5】 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

[回答者数=1,522]

1 沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	45.7%
2 水質の保全・管理 （産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）	68.5%
3 自然景観・文化的景観の保全 （自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）	51.1%
4 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	26.2%
5 健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	12.5%
6 水質等の監視測定や調査研究	20.6%
7 瀬戸内海の関係府県等の連携の強化	20.4%
8 情報提供、広報の充実	6.5%
9 環境学習の推進	6.8%
10 その他（ （無回答）	0.6% 7.6%

瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについては、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が68.5%と7割近くを占め最も高く、次いで「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が51.1%、「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が45.7%などとなっている。

< 瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて >



性別にみると、男女とも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が69.0%、『女性』が69.0%となっている。これに、男女とも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が半数を超え最も高く、特に『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では7割を超えている。これに、『50～59歳』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、その他の年齢では、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

職業別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が半数を超え最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では7割を超えている。これに、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、これに『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など）」が6割を超え最も高く、特に『20年以上』を除く全ての居住年数で7割を超えている。これに、いずれも「自然景観・文化的景観の保全（自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内海の環境の保全に関する取組みについて

(単位:%)

区分		回答者数(人)	沿岸域の環境(藻場・干潟・自然海浜など)の保全・再生・創出	水質の保全・管理(産業排水の規制、下水道等の整備、有害化学物質の対策など)	自然景観・文化的景観の保全(自然公園・緑地・史跡等の保全、海ごみ対策など)	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	健全な物質(栄養塩など)の循環機能の維持・回復	水質等の監視測定や調査研究	瀬戸内海の関係府県等の連携の強化	情報提供、広報の充実	環境学習の推進	その他	無回答
全体		1,522	45.7	68.5	51.1	26.2	12.5	20.6	20.4	6.5	6.8	0.6	7.6
性別	男性	616	49.5	69.0	49.7	28.4	13.1	19.8	21.3	4.7	5.8	1.1	6.0
	女性	858	43.4	69.0	52.9	24.9	12.2	21.3	20.6	7.6	7.6	0.2	7.6
年齢別	20~29歳	104	47.1	74.0	58.7	29.8	17.3	18.3	19.2	6.7	7.7	0.0	2.9
	30~39歳	184	40.2	73.4	61.4	27.2	17.4	23.9	12.5	8.2	8.7	0.0	2.7
	40~49歳	201	44.8	76.6	52.7	27.9	16.9	23.4	19.4	8.0	9.0	0.5	2.0
	50~59歳	254	58.3	75.2	50.0	27.2	15.0	18.9	20.9	6.3	7.1	1.2	2.8
	60~69歳	373	49.1	65.7	52.3	26.3	8.3	20.9	23.3	4.8	5.9	0.8	7.5
	70歳以上	360	36.9	59.7	44.7	24.2	9.4	19.2	24.2	6.1	5.6	0.6	15.0
職業別	農林漁業	77	31.2	58.4	41.6	33.8	5.2	26.0	28.6	1.3	7.8	0.0	11.7
	商工業、サービス業、自由業など	198	46.0	67.7	53.0	23.7	11.1	19.7	19.2	6.6	6.1	0.5	7.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	560	52.7	75.5	56.8	27.1	15.5	21.3	17.1	7.3	8.2	0.5	2.3
	主婦・主夫	356	42.4	66.6	48.9	27.5	11.5	21.6	24.7	6.5	6.2	0.6	7.9
	無職	271	42.1	63.8	47.2	24.7	10.3	17.7	23.2	5.5	5.5	1.1	11.8
圏域別	高松圏域	710	44.9	69.0	51.8	24.2	12.7	21.4	21.5	7.3	6.6	0.7	7.2
	東讃圏域	150	46.7	66.7	44.7	29.3	12.7	19.3	15.3	4.7	10.7	0.7	10.0
	小豆圏域	41	56.1	63.4	48.8	24.4	12.2	14.6	12.2	9.8	7.3	0.0	9.8
	中讃圏域	407	46.2	68.1	54.1	27.3	12.8	18.9	19.4	7.1	5.2	0.5	7.4
	西讃圏域	214	44.4	69.6	47.7	29.0	11.7	22.9	23.8	3.3	7.9	0.5	7.5
居住年数別	3年未満	98	51.0	79.6	51.0	29.6	15.3	24.5	12.2	4.1	2.0	1.0	5.1
	3年以上~10年未満	220	46.4	72.7	53.2	28.6	15.9	22.7	16.4	6.4	9.5	0.0	4.5
	10年以上~20年未満	225	49.3	71.1	53.3	28.9	14.2	21.3	16.9	8.4	8.4	0.0	3.6
	20年以上	935	44.5	66.4	50.9	25.0	11.2	19.6	24.0	6.2	6.4	0.9	8.3